



厚生労働省「試案」と対峙して —小樽市医師会からの報告

小樽市医師会理事 高村一郎
北海道医報通信員

小樽市医師会は、厚生労働省の「試案」が発表された翌日10月20日に臨時三役総務会を開催し、できる限りの反対運動を展開することを決めた。直ちにこの問題に関する緊急講演会を開催することとした。また独自に、過酷な国民負担増加の内容を知らせる宣伝チラシ・ポスターなどを作成し全会員に配布することとした。さらに、すでにスタートしている小樽市医師会が提供するFM小樽での番組「健康おたる」を通じて、今回の「試案」中身を報道することとした。また10月23日には医師会三役などが来樽中の北海道四区選出の衆議院議員、鉢呂吉雄氏に対し「試案」について情報提供を行い、国民の健康を脅かしかねない危険性について訴えた。緊急講演会は「医療制度崩壊の危機」と題して10月31日に中川俊男道医常任理事を講師に招いて小樽市医師会館で開催され、多くの会員、従業員が参加した。中川先生の迫力ある講演に出席者は改めて身の引き締まる思いであった。この模様は道新（小樽版）にも報道されている。この間後志ブロック大会が10月29日に小樽で開催され、藤原秀俊道医常任理事に緊迫した中央情勢について講演いただき、後志地区の都市医師会々員と危機感を共有した。今後後志ブロック内でも意見交換など緊密に連携して行くことを確認した。

一方で運動の広がり求め、医師以外の医療関係者の団体である小樽市歯科医師会、小樽薬剤師会、北海道看護協会小樽支部などに呼びかけ、合同で11月7日に緊急会議を開催し運動の方向を探った。4団体は現在の医療情勢に対する危機感を共有し、共同して運動を展開することを申し合わせた。その場で1) 街頭での署名運動を含めた患者負担増反対、国民皆保険制度を守る署名運動を

スタートする、2) 第二弾の緊急講演会を4者共同で開催するなどを決定した。街頭宣伝活動は11月13日から日曜と休日計4回行われたが、回を追って関心が高まり人通りの少ない小樽ながら街頭宣伝だけで合計1,000筆に迫る署名を集めることができた。署名活動は一人で1,000筆以上を集めた猛者も現れるなど各病院・診療所をはじめ薬局、歯科医院などでも積極的に行われ、最終的に30,856筆に上った。これは人口142,165人の小樽市の約22%にあたる。また4団体共催の講演会を11月22日に開催し、高村が講師をつとめ「国民負担を増加させるのが改革か」と題して講演した。会場のマリンホールには市民を含む200人以上が集まり熱心に耳を傾けた。また慢性腎不全で透析中の患者も発言し、患者負担増加政策の過酷さを切実に訴え聴衆の関心を集めた。

厚生労働省の構造「改革」試案について、道医を先頭に道内の各都市医師会はそれぞれに危機感を抱き反対運動を展開してきた。それが12月4日の総決起集会に会場からあふれるほどの参加者となって結実したものと思う。しかし小泉劇場は未だにロングランを記録し続け、「改革」なければ夜も明けずとばかりの報道があとを絶たない。一方報道各社には国民の暮らしと健康を守る視点は乏しく、国民の立場に立ち今回の問題を真摯に掘り下げる報道は多くは見られなかったと思う。

すでに12月1日には政府与党は医療改革協議会において医療制度改革大綱を決定、国民皆保険制度は瀕死の重傷である。しかしこれで終わりではない。ここを新たなスタートとして、これまで以上に患者と手を携え長期戦の構えで運動を続けていかねばならない。